

# 注 意 報

長崎県病害虫防除所長

令和2年度病害虫発生予察 注意報第4号

## 普通期水稻 トビイロウンカ

1. 発生地域 (対象地域) 県内全域

2. 発生程度 多

3. 注意報発令の根拠

- (1) 7月前期の巡回調査(80筆)の結果、普通期水稻における株当たり虫数は0.1頭(平年0.0頭)、発生圃場率は30.0%(平年3.1%)であり、平年より多かった(図1, 2)。
- (2) 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、普通期水稻における株当たり虫数は0.5頭(平年0.0頭)であり平年より多かった。
- (3) 気象予報(福岡管区气象台、令和2年7月9日発表)によると、向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

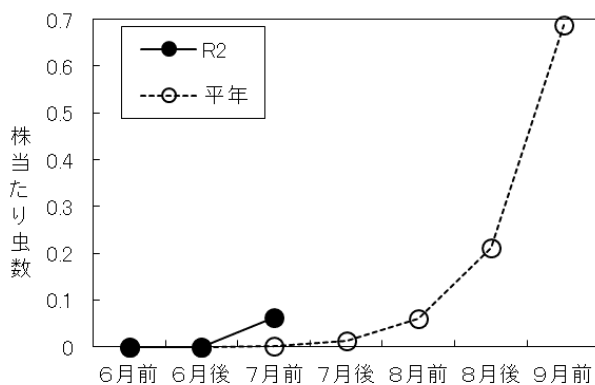


図1 トビイロウンカの株当たり虫数の推移

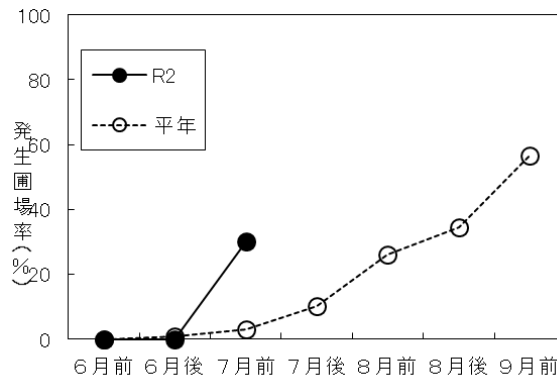


図2 トビイロウンカの発生圃場率の推移

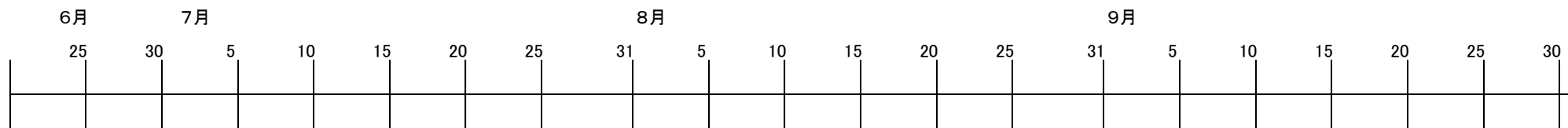
4. 防除対策

- (1) 本虫の今後の発生予測は別紙図のとおりであり、現時点での主要飛来日は6月28日、7月5日、7月8日と推定される。
- (2) 現時点での主要飛来日における基幹防除の適期については、トリフルメゾピリムを含む箱剤(防人箱粒剤、ビルダーフェルテラゼクサロン箱粒剤、サンスパイク箱粒剤、アンコール箱粒剤等)を施用した圃場では第二世代幼虫を対象とした8月4半旬と予想される。また、ピメトロジンを含む箱剤(デジタルパウアー箱粒剤、ビルダーフェルテラチェス箱粒剤等)を施用した圃場では第一世代幼虫を対象とした7月5半旬、及び第二世代幼虫を対象とした8月4半旬と予想される。
- (3) 本年は断続的な飛来があっているため、本田薬剤散布5~7日後に防除効果を確認し、寄生虫が確認されたら追加防除を行う。また、追加防除ができない場合は出穂後の基幹防除を必ず行う。
- (4) 本虫は株元に好んで寄生するので、農薬散布は株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に行う。
- (5) 圃場間や同一圃場内でも偏って発生していることが多いので、圃場の見回りを徹底する。
- (6) 今後の圃場での発生状況に十分注意し、7月下旬~8月上旬に100株当たり20頭以上の成虫の寄生が認められる場合、幼虫ふ化揃い期に防除を行う。
- (7) 薬剤の使用にあたっては、農薬の使用基準を遵守するとともに周辺環境を十分に確認し、ミツバチを含め周辺動植物等への飛散等の影響がないよう十分注意する。

- 
- 6月から8月までの3か月間を「農薬危害防止運動月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。
  - 水稻穂吸汁性カメムシ類防除のため水田に散布する殺虫剤により、ミツバチに被害が生じる可能性がありますので、十分な配慮をお願いします。
  - 長崎県病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。「長崎県病虫害防除所ホームページ」  
アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>
  - この情報に関するお問い合わせは、電話をお願いします。  
長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027



(図) トビイロウンカの発生予測図(令和2年)



(飛来日)

6月28日	成虫	卵	第一世代幼虫	成虫	卵	第二世代幼虫	成虫	卵	第三世代幼虫	成虫	卵
7月5日		成虫	卵	第一世代幼虫	成虫	卵	第二世代幼虫	成虫	卵	第三世代幼虫	成虫
7月8日		成虫	卵	第一世代幼虫	成虫	卵	第二世代幼虫	成虫	卵	第三世代幼虫	

※ 発生予測の気温は諫早市貝津町(農林技術開発センター)のデータを用いた(7月12日まで実測値、13日以降は平年値)

※ 予察灯とネットトラップ及び圃場調査より現時点での飛来日を推定した。